

2012-14 IDT セッションプロフィール：グループの良心

セッション資料: 質問の記載されたノート用紙、グラウンドルール、ブレインストーミング・ガイドライン、ファシリテーター用インストラクション用紙、伝統と概念の用紙、グループの良心のハンドアウト。

セッションの目的

- ・すべてのNAサービスにおける意思決定と説明責任に関連して、グループの良心と委任の原則について議論する。
- ・伝統と概念の原則に見られるいくつかの矛盾について検討し、そのバランスをどう取るかを話し合う。

構成

- ・ イントロダクションー背景、グループの良心、委任、私たちの原則：10分
- ・ 大グループ討論ーホームグループでの決定：15分
- ・ 小グループ討論の準備：10分
- ・ 小グループ討論ー決定、委任、説明責任：20分
- ・ 小グループからのフィードバック：15分
- ・ 大グループ討論ー委任と責任：15分
- ・ セッションまとめ：5分

イントロダクションー背景、グループの良心、委任、私たちの原則：10分

ファシリテーターは自己紹介を行い、セッションとその目標の概要を説明する。参加者には、このセッションが比較的短時間で多くの内容を扱う濃密なものであることを伝える。

- ・ このセッションは、一部にはサービス・システムの提案に関して私たちが耳にしたいいくつかの懸念から生まれた。具体的には、次のレベルのサービスにおいてサービス機関の境界（エリアのすることとリージョンのすること等）を集団で決定することが伝統と一致するのかという疑問が一部メンバーから出された。また、運営上の実務的な決定をローカルのサービス・ボードに委任することとグループの良心の原則との整合性についても懸念があった。
- ・ より一般的に言えば、私たちのサービス・システムの変更を話し合う際には、「グループの良心」「委任」「説明責任」という言葉の意味と、これらの原則がどのように組み合わせられて機能するのかについて、さらに議論する必要がある。
- ・ 委任とグループの良心の間に矛盾があるという認識は新しいものではなく、場所によっては今もなお、NAのサービス機関が12の概念と12の伝統が矛盾していると思われている。

- ・このセッションは、「真のスピリチュアルな原理は決して矛盾しない」という理解を深め、私たちの伝統と概念が調和して働き、活動を導くことを学ぶために設計されている。
- ・まず、私たちのさまざまなグループやサービス機関で経験する「グループの良心」の意味について話し合う。次に、委任と説明責任のバランスを取り、グループと他のレベルのNAサービスの関係を形作る方法について話し合う。

大グループディスカッションーホームグループでの決定：15分

会場のさまざまな場所から数名のメンバーに、自分たちのホームグループがさまざまな種類の決定をどのように扱っているかを共有してもらう。

大グループ質問 — 下記の質問をパワーポイントスライドまたは配布資料として使用する

1. あなたのグループは、ミーティング形式や他のサービスレベルへの献金額など、グループの課題に関する決定をどのように行っていますか？
(少なくとも2人の回答を求める。例を挙げてもらい、通常どのようなプロセスで進むのか、議論が奨励されているかなどを聞く。)
2. あなたのグループは、グループに差し戻されたエリアの動議など、地域のサービス課題に関してどのように決定しますか？ それともそもそもそういったことは扱っていませんか？
(少なくとも2人の回答を求める。どのようなプロセスで課題を話し合うのかなど、さらに詳しく掘り下げる。)
3. 挙手でお答えください。あなたのグループには、グループ課題やASC課題の投票が許される人に関する要件がありますか？
そういった要件があるグループでは、その理由についてグループとして話し合ったことがありますか？ それとも「昔からのやり方だから」と単に受け入れられていますか？

ファシリテーターは、こうしたディスカッションからも分かるように、グループの良心についての考え方はグループごとに多様であることを説明する。これは問題ではない。しかし、これらの方法の一つが唯一正しいやり方だと考え始めると問題が生じる。たとえあるリージョンやゾーンの多くのグループが似たようなやり方で機能していたとしても、リージョンレポートによれば、世界的には必ずしもそうではない。

小グループディスカッションーセットアップ：10分

ファシリテーターへの注意:

以下の情報はパワーポイントのスライドや配布資料として用意されている。メンバーは詳細を配布資料で確認できるので、ここでは要点だけをまとめて説明する。重要なのは、細かい手順をすべて覚えてもらうことではなく、やり方に大きなバリエーションがあるという事実を理解してもらうこと。

- ・ 2012年のWSCで、「あなたの地域では、WSCの議題に関してどのようにグループの良心をまとめますか？」という質問をしました。回答は非常に多様でした。多くの地域は、この質問を「WSCの議題についてどうやって情報を得ますか？」という意味で受け取ったようです。それでも、受け取った112件の地域報告のうち、60件以上が地域としての良心のまとめ方について具体的に答えていました。

その内訳は、おおよそ以下の通りで、

- ・ グループ単位での集計
 - ・ 何らかの形式の地域アセンブリー
 - ・ エリア単位での集計
- がほぼ同じくらいで、最後のエリア単位はやや少なめでした。

具体的な数字は：

- ・ グループ集計 … 18
- ・ 地域アセンブリー … 14（アセンブリー内でグループ集計を行う場合は上記に含む）
- ・ RSC … 4
- ・ エリア集計 … 16
- ・ 個人メンバーの集計 … 7
- ・ 地域代表（RD）のみ … 3
- ・ WSCの議題は扱わない … 3
- ・ ゾーンを通じて … 1

報告にはさらに以下のような詳細も含まれていました：

- ・ 一部の地域では、グループによる不在投票やオンライン投票を認めている。
- ・ 一部の地域では、RSCに誰でも参加できるオープンな形式をとっている。
- ・ WSCに追加の議題が出た場合に備えて、RSCで代表に信任投票を行う地域もある。

ファシリテーターは、NAにおける「グループの良心」の運用方法については非常に多様な考え方があるため、時には単純に伝統と概念というスピリチュアルな原理に立ち返るのが最良の場合もある、と説明する。この後は、小グループディスカッションを通じてこのアイデアを探究していく。

小グループディスカッションー決定、委任、説明責任：10分

- ・ 次の「なぜ どのように効果があるのか」と「NAサービスのための12の概念」からの抜粋はセッションの配布資料にある。時間に余裕があれば、参加者にこれらの文章を声に出して読んでもらい、ファシリテーターとしてこれらの伝統と概念がどのように連動しているかを話し合うとよい。
- ・ 時間がない場合は、パワーポイントのスライドにある「伝統2&9」と「概念3&6」を参加者に読んでもらうだけでも構わない。

伝統 2 私たちのグループの目的のための最終的権威はただ一つ、グループの良心の中に現れる愛なる神である。私たちのリーダーは奉仕を任されたしもべにすぎず、彼らは決して支配しない。

配布資料文：

「私たちがサービスを行う場合、それが、個人としてか、グループとしてか、あるいはコミティ（委員会）やサービスボード（サービスの役員会）としてかはともかく、そのサービスの方向付けは自分で理解している神によって示される。私たちが一体となって協力するときはいつでも、この愛なるハイヤーパワーの存在を頼り、その導きを求めている。すると私たちのあらゆる行動の中に方向付けが示される。」（なぜ どのように効果があるのか 伝統2）

伝統 9 NAそのものは決して組織化されてはならない。しかし、サービスの機関またはコミティを作ることができる。これらの機関は、グループやメンバーからの付託に直接応えるものである。

配布資料文：

「グループは、自分たちへのサービスのために作られたボードやコミティと情報を共有し、指針を求める。一方、ボードやコミティは、グループに対して、活動状況、話し合いの内容、計画などを報告する。グループからゆだねられたことにこたえる責任を持つサービスボードやコミティは、グループに直接影響のあることについてはグループの意見を聞き、まだ方針として固まっていないことについては、グループに指示を求める。…できることなら、組織的なサービス活動とグループをはっきり分けて考えるべきだ。そうすればグループは、アディクトからアディクトヘメッセージを運ぶと言う第一の目的を、シンプルかつ明快に果たすことができる。ボードやコミティを作るのは、必要性だけ考えた結果であるため、その指針はできるだけシンプルなものにしている。」（なぜ どのように効果があるのか 伝統 9）

概念3 NAグループは、サービス機構が課せられた責任を果たすために必要な権限をその機構にゆだねている。

配布資料文：

「NAグループが設立したサービス機構の最終責任と権限はNAグループが保持している。とはいえ、あらゆるサービスボードやコミティに代わってグループが意思決定に直接関わるべきだとしたら、ミーティングの場で回復のメッセージを伝える時間やエネルギーはほとんど残されていないだろう。したがって、サービス機構がグループから課せられた役割を実行する際には必要な意思決定をする権限もサービス機構に委ねられている。」

(NAサービスのための12の概念 概念3)

概念6 グループの良心とは、愛なる神のはたらきが私たちの決定に示されるよう心を開くスピリチュアルな手段である。

配布資料文：

「仲間のメンバーたちが話していることを、言葉だけでなく、その言葉の背後にある精神にまで耳を傾けるとき、私たちは概念6を生かしている。また、自分の意思ではなく、神の意思が行われるよう求めるとき、そしてサービスの決定をするなかで、自分のためではなく、ほかの人たちの役に立とうとするとき、私たちは概念6を当てはめている。グループ、サービスボード、コミティの中でサービス関連の意思決定をする前に愛なる神に答えを求めるとき、私たちは概念6を生かしているのだ。」

(NAサービスのための12の概念 概念6)

・参加者に、これらの伝統と概念の中で「委任」「グループの良心」「責任」の原則がどのように建設的な緊張関係を作っているかを示す抜粋が記載された配布資料があることを伝える。

・これらの原則の実践的な適用について、小グループで話し合う。

各グループはファシリテーターと記録係を選ぶ。記録係は、時間がかかっても構わないので、できるだけ明確にアイデアを書き留めること。ワールドサービスはワークショップ終了後に皆さんの意見を求めています。

小グループディスカッション 質問

(パワーポイントスライドまたは配布資料に以下の質問を用意する)

4. A.あなたのホームグループは、地域・リージョン（またはワールド）の事柄にどの程度関わりたいですか？
B.あなたのホームグループが検討すべきだと思う地域・リージョン・ワールドの具体的な決定事項にはどのようなものがありますか？

C.あなたのホームグループが委任すべきだと思う決定にはどのようなものがありますか？（グループは決定の具体例を挙げたりリストを作成してもよいでしょう）

5. もしグループが直接決定に関与しない場合、サービス機関に対してどのように責任を問うことができるでしょうか？

小グループフィードバック：15分

できるだけ多くの小グループからフィードバックを聞き、部屋の前方でそのアイデアを記録する。ここでも、できるだけ具体的な回答を引き出すように。テーブルごとの報告内容を、「委任」「グループ良心」「責任」という概念と結びつけるように心がける。

これはまた、「プランニングに基づいたサービス機関」という考え方と、プランニングプロセスにおけるグループの役割を強調する機会にもなり得る。特に、サービスの提供方法に関する細かい部分に関与するのではなく、サービスの目標・優先順位・全体的な方向性の設定におけるグループの関与について強調することができる。

大グループディスカッションー委任と責任：15分

小グループで、NAグループがサービス機関にどのように責任を果たさせることができるかについて、皆さんはちょうど話し合いました。

ここからは、グループによって作られたサービス機関の視点から、同じ課題に取り組んでいきます。

6. サービス機関は、グループから委任された権限をどのように行使しながら、「自分たちがサービスする者たちに直接責任を負う」ことを維持できるでしょうか？

「信頼されたしもべ」という考え方を振り返ることが役立つかもしれない。つまり、グループやサービス機関によって指示される者（しもべ＝サービスをする仲間）でありながら、同時に権限を委任されている者（信頼されている）であるということ。そして、このことが概念2と概念3をどのようにつなぐのかを考えてみよう。さらに、計画に基づくシステム（plan-driven system）は、サービス機関が「自分たちがサービスをする者たちに直接責任を負う」ことを確保しつつ、与えられた役割を果たすために必要な権限を持たせる、一つの方法である。もし誰も概念8や概念9について触れなかった場合は、それらへの言及と、明確なコミュニケーションおよび責任ある意思決定の必要性を示して締めくくるとよい。

セッションまとめー：5分

セッション冒頭で話し合ったように、真の霊的原理は決して互いに矛盾しない。私たちのプログラムには「降伏して勝つ」や「与えることでいただく」といった多くの逆説がある。グループ・コンセンサス（集団良心）と委任の原理も、矛盾するものではなく、互いを補い合うものである。

今日皆さんからいただいた意見は、今後のサービス活動、特にサービス・システム・プロジェクトに関する取り組みに役立てられます。

進行役への注記：本日の「IDT」に関する質問への意見は、worldboard@na.org までお送りください。セッション・プロフィールや資料は www.na.org/IDT で入手できます。